

第3回神戸川の河川環境に関する専門委員会 意見発表要旨

【日 時】 平成24年10月12日(金) 13:30～16:40

【場 所】 くにびきメッセ 1階 多目的ホール

【発表者】 片寄 巖:神戸川漁業協同組合長

小川 弘知:長浜自治協会会長

空岡 健:志津見ダム周辺活性化総合整備推進委員会委員

【内 容】

■片寄 巖 氏

(発表内容)

- 来島ダムの建設は国策として作られたダムであるが、その当時は河川環境や環境保全という意識は今に比べればゼロに近い状況。
- 生態系としての川は決定的なダメージを受け、近年の温暖化、森林の荒廃などによる保水力の低下、そしてダムの直接的な影響と複合作用し、環境の悪化を複雑化している。
- 神戸川の水量が激減し、河川の汚れ、川岸の森林化等によって、天然豊かな珪藻類、コケ類が非常に少なくなった。
- 来島ダムの上流部から流量の87%を江の川の潮発電所に使っていることが水量が激減した最大の原因になっている。
- 下流には窪田、乙立発電所の2つの減水区間が存在し、合計3つの発電所で最大毎秒23.5トンという大きな水を使っている。これにより、慢性的な水不足を起こしており、魚類の生態系に及ぼしている影響は非常に大きい。
- 窪田、乙立発電所の取水堰下流では、少ししか水が流れていない。
- 平成18年災害で甚大な被害を受けた須佐、乙立、朝山地区では河川改修により、魚の生息する場所がほとんどなくなった。
- 馬木と仁江の2点の観測をもって河川の運用をしているのは大きな間違い。
- 神戸堰下流に下がっていく段階で、卵黄が十分ある正常な状態のアユの稚魚は4%にすぎない。河川の水が少ないことを確実に表している数字だと思う。
- 色々な面で、神戸川の水は神戸川で使ってほしい。
- アユ等が食べるコケが非常に少なくなった。
- 専門委員会の皆様には、色々な場所のデータを取り、様々な方々の意見を聞いていただいた中でよい結果の判断をしていただくよう、特に10年20年後を見据えたものを出していただきたい。

■小川 弘知 氏

(発表内容)

- プールとの関係もあるが、神戸川と触れ合う機会というのが非常に少なくなってきているというのが、沿川の地元の状況。
- 近年は、河川改修に伴い親水護岸を整備してもらい、レガッタ大会を通じて、神戸川に触れ合う機会が増えてきたが、今の神戸川の水には「ぬめり」や「にごり」がある。レガッタ艇の片付けの際、高圧洗浄機で神戸川の水をポンプアップして清掃するが、ぬめりが取れず、雑巾がけをして初めてふき取ることができる状況。
- 昭和40年代半ばまでは、神戸川で泳いでいた事実から見ると、それまで神戸川はきれいな状態であったのではないかと思う。
- 神戸川電源開発が示された時点から、水量減少により河口閉塞がさらに悪化するのではないかという懸念があった。
- 近年までは、定期的に県で河口閉塞対策として浚渫を行っていたが、最近は浚渫は行われていない。
- 現在、神戸堰の方まで潮が差している状況であり、そのおかげで長浜地内では、非常にシジミがたくさん取れる。
- 我々長浜住民にとっては、河口閉塞の問題以上に、洪水時に果たしてどうなるのかということを心配しているのが現状。
- ハマグリについて、全国的にはハマグリは激減が1980年代からと言われているが、外園海岸においては、それよりも早く昭和40年代に入ると激減した。また、この1、2年ほどはほとんど獲れない。
- キスについて、平成21年頃から獲れる量が減り、大きさが小さくなった。去年、今年はほとんど獲れなくなった。生態系がかなり変わってきているのではないか。

■空岡 健 氏

(発表内容)

- 小学生の頃は、夏休みになると毎日神戸川で泳いでいた。当時は、深い所、急な瀬が多くて怖い思いもしたが、現在は、見る影もないほど浅くなっており、昔あった瀬や淵がほとんどなくなっている。
- 以前は雨が上がって水が引いたあと、神戸川の水、川底の美しさを見ることができたが、今ではほとんど見るができない。
- 上流の来島ダムと下流の志津見ダムに挟まれてしまった地域は、全国でもそう多くはないと思う。
- 小・中学生の頃は、来島ダムの水が分水されていることなど知らなかった。それぐらい当時の神戸川は水量も豊かで魚などもたくさん住んでいて、遊びの場所として神戸川は存在していた。
- 志津見ダムの関連工事が始まった平成5年以降、川へ魚釣りに行くことはほとんどまれになった。水量については、昭和40年ごろと比べると明らかに減ってきているが、これは、地球温暖化や山林の荒廃等の影響もあるのかもしれない。
- 水質については、合成洗剤の使用などによって環境汚染が少しずつ始まり、子供たちの足が神戸川から少しずつ遠のいたように感じる。ダム工事に伴う生活環境整備で、合併処理浄化槽や農業集落排水の整備が行われ、家庭からの放流水はきれいになったが、実際の川の水は、それほどきれいになったとは思えない。
- 八神地区の方は長年神戸川で魚釣りをしていたが、最近は全く行く気にならない。魚がいないとのこと。特にアユの大きなものが全くいない。
- 志津見地区の方で今年6月下旬に夜釣りをしていたところ、日が暮れてちょっと暗くなったところに明らかに色が違う水が流れてきた。黒く濁った水だった。
- 5月になってから毎日神戸川を見ているが、川の水は明らかに不透明な時がある。ここ2週間ほどは、理由はよくわからないが神戸川の水の量は少しずつ多くなってきているように感じる。
- 志々小学校の児童が、川に入って生物などの調査を行っている。子供達には是非きれいな神戸川を体感させてあげたいし、校歌にもある「清らかな神戸の流れ」を実感させてあげたい。
- 少しでも50数年前の神戸川に戻していくためには、神戸川に流す水量をもっと増やすことや、山林を活性化させ、山林から流れ出る水の量を増やすことを考えるべき。